



## 第二十四号 「もうすぐ百周年」

メルマガnoich第24号、今月のテーマは「もうすぐ百周年」。

いよいよ目前に迫った正派創始百周年記念演奏会。

リハーサルも終え、諸々の準備も完了し、今は静かにその時を待っています。

かくいう嵐の前の静けさとは、まさにこのことかもしれません。

一大イベント直前の発行となった今回のメルマガは、やっぱりこの人に聞いておこう。

ということになりました。

奥田雅楽之一、百周年記念演奏会を前にさらっと語ります。

**編集部**…正派せいはいはご自身にとって、どんな存在ですか？

**雅楽之一**…正派は、漢字でかくと『正』しい『派』となりませんが、僕は物心がついた頃から、例えばネコとかスプーンだとかと同じように、セイハという耳障りがごく当たり前で、馴染みのものでした。父親が会社員のご家庭が「会社」と日常的に使うのと似たようなものかもしれません。ですから、僕にとっての正派は、それが箏曲の一流派であるとか、家元はそのリーダーであるということではなくて、セイハという、当たり前が存在がそこにある、ということだけです。でも、その反面、会員の方々にとっての正派が何であるかを、常に自分に問うています。いるつもりです。逃れられない主観性は、承知の上ですすけど…。

**編集部**…中島雅楽なかしま之都初代家元の掲げた、「音楽を以って国恩に報ず」（正派モットー）を今後具体的にどう行動しますか、またそれに伴い正派会員に願うことなどがあれば一言お伺いしたいです。

**雅楽之一**…正派のモットー。僕は好きです。しかし、それが押し付けがましいものであったり、どこか高圧的に理解させるものではなくて、自然に伝わればいいですね。さらに言えば、初代家元の志は確かに崇められるべき、伝えていくべき思想のだけど、いつの時代でも世間とズレた感覚で教えを捉えては、それでは無意味ですし、初代もきつと望んでいません。情熱的である以上に、常識的でなければ、誰も付いて来ない。それが正しい導きだと僕は思います。

**編集部**…正派百年の歴史の中で特筆すべき出来事は？また、若者や最近正派の会員となった方にも知っていて欲しいことをお聞かせください。

**雅楽之一**…特筆すべきは、初代家元、二代目家元が、沢山の人の守ってきたことだと思います。戦争や、自然災害、



5月某日、奥田雅楽之一事務所にて

病気やケガなど、いつどんな時でも、家元が弟子たちを見捨てることはなかったと思います。

**編集部**…中島靖子二代家元へ一言。また、おばあちゃんであられる靖子先生へ、としても一言お聞かせください。

**雅楽之一**…祖母は、僕の全てのはじまりです。祖母が家元でなければ、僕はこの世界にいませんし、祖母が見守ってくてくれたからこそ、今こうして、この世界で頑張ろうという志に繋がっています。お伝えしたいことは、いつも感謝の気持ちしかありません。

**編集部**…ご自身の、正派という団体に対する関わり方がここ最近の間で変化してきたと思いますが、これまでの人生を振り返ってみて、そのあたりの心境をかつてまんでお伺いしたいです。

**雅楽之一**…そうですね。確かに、最近はおける立場が変わってきました。評論員にご推薦いただいたことが、まず大きいと思います。プレッシャーがありますね…とよく心配していただきますが、プレッシャーというのはそんなに感じないんですけど、ただ、大きな責任を感じていま

↓次ページにつづく



す。その責任を一生にかけて果たしていくことが、僕の使命だと思っています。

**編集部**…将来、一子先生（副家元）とだからこそできる〈新しい力〉があるとすればそれは何ですか？

**雅楽之一**…大袈裟な言い方になりますが、それが必要と思えば、どんなことでも出来ると思います。母は慎重で僕は大胆なところがありますが、優秀な協力者に不足を補っていただいて、会員や、お客様が楽しんでいただけるような発想を、一つずつ実現していきたいと思っています。

**編集部**…未来の正派、ひいては邦楽界はどのようになっていくと思いますか？

**雅楽之一**…未来と一言に言ってもですね、考えてみれば明日だって、一時間後だって、一分後だって未来なんですよ。未来には過去と同様に幅があります。結局、僕のような怠け者は、未来、未来と言うのが逃げ口上になるので、未来は禁句です。計画的にやるべきことをやり、尚且つ計算外の偶然が重なってくることで、近い未来、遠い未来があります。僕の中で具体像、というか理想像は見据えていますが、そういう訳で、行動を以ってお示ししていきたいと思っています。これでいいかな？だめ？

**編集部**…正派を築き、今後も見守って下さるであろう初代家元への思い、お伝えしたいことをお聞かせください。

**雅楽之一**…以前、僕が二十歳くらいの頃だけど、青森県の某所へ行って、イタコさんに会いに行きました。他ならぬ、ひいじいさんをあの世から一時連れ戻してもらおうと思っただけ。ところが、イタコが定休日だった（笑）イタコにも定休日があるのかって思ったけど。それ以来、もうそ

ういう考えは捨てました（笑）でも、時々、お墓参りした時に話しを聞いてもらいます。実際に口に出す時もあるし、心の中で伝える時もあるけど、あんまり深い内容ではなくて、「今日はお花屋さんが休みでした〜」とか、「蚊が多いので早めに退散します」とか（笑）

**編集部**…さて、今回の百周年記念演奏会ですが、全国から集まって行う演奏会の目的・意義などをお聞かせください。

**雅楽之一**…僕も経験が浅いので偉そうなことは言えませんが、最大の意義は、一つの目的を、みんなで果たすことだ

と思います。一人一人がパズルのピースのように責任を持って、それがはめ合わされて完成した時に初めてわかる達成感が、きつとあるんだと思います。そのために準備してきたこと、ひいては芸道を歩んで来たことに誇りを持つて、百周年記念演奏会に千三百本の花を添えていただけることが、最高の目標です。

**編集部**…では、最後に。今、百周年記念演奏会に向けて前向きに頑張っている全ての人に向かって、何かお伝えしたいことがありますか？一言お願いいたします。また、当日、会員に心がけていただきたいと思うことなどをお聞か



↓次ページにつづく

してください。

**雅楽之一**…演奏会に参加することは、お金もかかりますし、時間もかかります。でも、この記念すべき会に参加していただける方が千三百人超、参加は出来なかったけれど、そういう思いを持つて下さいます方々も沢山いらして、僕は感謝の気持ちで一杯です。ありがとうございます。当日は混雑致しますが、冷静かつ慎重に、しかし一刻と過ぎる時間を噛み締めて、一緒に楽しんでいただければ幸いです。



## 一言・ひょうご

邦楽囃子方 (http://www.tazae.com)

望月 太左衛門

### 「まつりの響き」

正派創始百周年、御祝申し上げます。

御家元様はじめ、御一門様のたゆみなき歩み、一日一日の積み重ねが一年一年となり、百周年という長い歴史となられましたことは、まさに一言では言い尽くすことのできない偉業でございます。これからもそのフロンティア精神をもって新たな道の先駆けとして私達邦楽界をお導きくださいますようお願い申し上げます。

今年の五月は三日、鐵砲洲稻荷神社御祭礼に初めて参加させていただきました。コートヤード・マリオット、銀座東武ホテルと、カフェジュリエ(メルマガ十九号「食も芸術」私のランチ③)で取材していただきました。前と東銀座・歌舞伎座近くで演奏することができ、とても嬉しかったです。

また、十一日は赤坂山王日枝神社の山王祭に参加させていただきました。御縁で日吉大社芸術祭・邦楽ライブ奉納を滋賀県大津市坂本でいたしました。山深い鎮守の森の中、拝殿での演奏はその神聖な雰囲気の中に包まれて明るく心穏やかにさせていただくことができました。有り難い経験をさせていただき感動いたしました。

そしていよいよ十七日、三社祭の初日です。宵宮は、金曜日の夜から始まります。お祭りという昼間というイメージがあるかもしれませんが、お祭りは夜から始まると実感できるのがこの宵宮です。日が落ちて、さわさわと空気が夜のモードになり、どこからか多くの人が集まってきます。提灯の明かりにゆれる御神輿をみると今年もお祭りが始まったと、始まることできたと有り難い気持ちになります。

二日目、各町会百基以上の御神輿が浅草観音境内に集合し

ます。ゴロゴロ会館横の掛屋台で演奏している私達の前を大人神輿、こども神輿と大小様々な町会の御神輿が通ります。三十分から四十分ぐらいい、休みなく「神輿囃子」を演奏し続けます。時折、神輿をさして(神輿囃子を演奏している私達にむかつて神輿を高く掲げる)いただく場面もあり、感激もひとしお、ますます元気に囃すこととなります。

三日目、本社神輿の宮出しに合わせて、午前六時音出しをします。日常ではありえない光景です。普通の時でしたら、朝、野外で太鼓を打つことはできません。お祭りだから、許されることですが、責任は重大です。町の家々にこの音が届いていて、まだ寝ている方々の耳にも聞こえている、お部屋やキッチンの間々にもこの音は響いていると思うと身が引き締まります。

夕方、雲行きがあやしくなってきましたが、ここで腕の見せ所と一段と祭り囃子の演奏に気合がはまりました。おかげさまで本社神輿の宮入りまで、お天気がもちました。前の号で書きました「雲きりの囃子」が功を奏したのかもしれない。やはり「音には力がある」と実感し、そういう音とともにいることの意味、囃子をさせていただいている使命を今一度考える三社祭でした。

三社祭が終わった浅草を歩いていて、まだ囃子の音が聞こえているような気がします。土地、空気は音を記憶している、まだ響いているようです。音には力があり、また、音は時を超えて響くのもなのです。

正派創始百周年記念演奏会の音は、上野から全国、世界中に響きます！皆さんの心の中に先生方、先輩方の演奏がまだ心の中にあるように次代の方の心の中にその響きは受け継がれていきます。すばらしい演奏会を多くの方々がお待ちです。

あらためまして、正派百周年おめでとうございます！ますますの御盛会をお祈り申し上げます。





## かみさまの四方山話 5

尺八演奏家 神令

### 「時間」

このメルマガをご覧の皆様は、おそらく邦楽の演奏会に足を運ばれる事がよくあるかと思いますが、演奏会の公演時間はどれくらいが多いのでしょうか？

三曲のリサイタルなどは二時間、西洋クラシックのコンサートも休憩を挟んで二時間強、ポップスのコンサートは、MCが盛りだくさんのアーティストも多いので三時間、能は狂言を含めて一時間半から二時間、歌舞伎や文楽は幕間を含めて三時間、オペラも三時間くらいでしょうか。もちろん演目にもよるのですが、大勢の観客とともに長時間同じ姿勢で緊張しながらじっとしている事はなかなかの体力勝負です。果たして程よい公演時間とはどのくらいなのでしょう？

もう一つ大切なのは開演時間。日本では平日の夜の公演は、午後七時が多いかと思いますが、この時間はまさに夕飯時のピーク。食べて向かうには時間が足り



Illustration: morimoe

ないし、終わってから食べると太るし…などと心配と空腹が交互に押し寄せてきます。また、会社にお勤めの方で、この開演時間に間に合うというのは、なかなか難しいのも事実です。なぜこんなに早く始まるのか？それにはいくつかの原因がある気がします。一つはホールの営業時間、多くのホールはスタッフも含めた退館時間が遅くとも十一時が多い点です。逆算すると演奏会の時間は限られます。その退館時間を決めている一つの要因は鉄道の終電時間。都心に住んでいる人はともかく、郊外に住んでいる方にとって、終電時間はとても気がかりです。この終電時間が早いのも日本の特徴かもしれません。そろそろ東京の場合山手線くらいは二十四時間営業でも良い気がします。もちろん電力の無駄遣いにならないように、極力お日様とともに生活する事が出来れば一番良いのですが、現在の東京の役割はそれにとどまりません。このような時間の諸事情が良い形で進化すると、比較的遅い時間に楽しめるコンサートの選択肢も増えて、コンサートに来て頂けるお客様も増えてくれたら嬉しいかぎりです。

### ◎あとかぎ◎

日本人は時間に厳しい。というか真面目だ。打ち合わせでは十分前に来ているのが当たり前で、遅れるなんてもつてのほか。電車に至っては世界一の精度。時刻表通りに走っているのは日本の鉄道だけと言われる。

そんな真面目な日本人が本来の姿だと思っている人も多いかもしれないが、実際はそうじゃない。百年ほど前から日本が近代化する過程の再教育によって、今のような真面目な日本人になったのだ。その前はどうかだったのか。そもそも時計が今ほど普及していなかった。だいたい時間を申し合わせておいて、三々五々と集まるのが普通だった。それだけではなくて、昔の日本人はおおらかだった。江戸時代に日本を訪問した外国人は街の清潔さとはうらはらな人々の奔放な振る舞いに(性的な意味も含めて)驚いていたようだ。時間にアバウトなだけでなく、昔の日本人はラテン系に近いような自由な人々だった。

そんな百年前の人からみたら、今の時代はどう写るのだろうか。百年前の人からみたら、今の人は幸せそうに見えるだろうか。

グラフィックデザイナー (http://www.1368.jp) みやはらたかお

